

熊本 卓哉<sup>1</sup>

<sup>1</sup>武蔵野大薬

FIP (International Pharmaceutical Federation, 国際薬学連合) は 1912 年に設立され、世界の 132 の薬学関係団体による団体会員と、三百万人の薬剤師・薬学研究者の会員を擁している。本会は非営利団体であり、1948 年より WHO と公式な協力体制を取っている。FIP は、薬の適正利用と研究開発のための実務と薬科学研究、薬学教育を発展させることにより、全世界的な健康の増進に寄与することをめざしており、それぞれ the Board of Pharmaceutical Practice (BPP, 実務部門), the Board of Pharmaceutical Sciences (BPS, 薬科学部門) が役割を担い、最近では、それに薬学教育の発展を目指した FIPEd が加わっている。

日本薬学会は FIP の団体会員、特に薬科学を志向する Representatives of Predominantly Scientific Member Organisation (PSMO) として加盟しており、横浜年会より FIP を紹介するフォーラムを毎年開催している。今回は、FIP/BPS 議長の G. Tucker 氏来日を機に、FIP における PSMO としての日本薬学会の役割、科学部門に特化した国際会議 (Pharmaceutical Sciences World Congress), 日本薬学会の部会に相当する BPS-SIG (Special Interest Groups) に日本から参画する委員による活動状況について紹介する。また、FIP における実務と薬科学研究の間の協調体制や、世界の薬科学が今後どのように発展していくか、そのなかでの FIP/BPS が担う役割について議論する。